3月23日は世界気象デー
—今年のテーマは、「未来を動かす—天気・気候・水」—

世界気象デーとは

世界気象機関（WMO）は、1950年（昭和25年）3月23日に世界気象機関条約が発効したことを記念してこの日を世界気象デーとし、毎年キャンペーンテーマを設けて気象知識の普及や国際的な気象業務への理解の促進に努めています。

今年のキャンペーンテーマは、「未来を動かす—天気・気候・水^{*}」です。

^{*}原文は“Powering our future with weather, climate and water”

WMOと持続可能な社会

WMOと同機関に加盟する各国の気象機関は、世界的な気象・気候観測のネットワークをつくりあげて、気象や気候変動、地球環境の観測・予測に貢献しています。特に2009年（平成21年）の第3回世界気候会議で構築が決定した「気候サービスのための世界的枠組み」は、気候変動への適応や災害リスクの管理のために、様々な分野での気候情報の利用を促進するものと期待されています。

我が国は、世界気象機関からアジア域の地区特別気象センター及び地域気候センターに指名され、その進んだ技術力を活かして、アジア・太平洋地域の各国気象機関が気象情報や防災情報、気候情報を作成するための支援を行っています。

気象・気候情報は既に様々な分野の意思決定に使われておりますが、防災や気候変動のリスク管理などの分野で、その重要性は今後ますます高まっていくと考えられます。持続可能な将来の実現するための気象・気候情報の重要性に焦点を当て、世界気象機関は、今年の世界気象デーをキャンペーンテーマを「未来を動かす—天気・気候・水」としました。

世界気象機関（World Meteorological Organization : WMO）の概要

設立目的	気象業務に関する国際的な調整・標準化・改善や、気象情報の交換促進
設立	1950年（昭和25年）3月23日
事務局所在地	スイス・ジュネーブ
加盟構成員	183か国・6地域（我が国は1953年（昭和28年）に加盟）
ホームページ	http://www.wmo.int/

問い合わせ先：総務部企画課国際室
電話：03-3212-8341（内線2267）